



しょうがっこうていがくねん《1・2年生》のみなさんへ

ふゆ休みおすすめ本リスト

登別市立図書館 [2022年版]

	しよめい さくしゃめい しゅっぱんしゃ	ないよう	しよめい さくしゃめい しゅっぱんしゃ	ないよう	
えほん	<p>「スープとあめだま」</p>  <p>プレイディみかこ 作 中田 いくみ 絵 岩崎書店</p>	<p>「家がない人たちをたすけるんだよ」と言う姉ちゃんにさそわれ、はじめてホームレスのシェルターに行ってみると、そこは教会(きょうかい)でした。ボランティアとして、あたたかいスープをくばる手つだいをしていたボクの手には、ホームレスのおじさんが「あめだま」をつくれました。</p>	としよ	<p>「おとうとのたからもの」</p>  <p>小手鞠 るい 作 すずき みほ 絵 岩崎書店</p>	<p>小学2年生のあおいは本がにがてだけど、おとうとの冬馬(とうま)は絵本が大すきみたいです。どんなときも絵本をよんでいる冬馬を外であそばせようとして、わざととりあげてみると…。その絵本には、じつはとても大切なひみつがあったのです。</p>
えほん	<p>「青いヌプキナの沼」</p>  <p>かこさとし 著 復刊ドットコム</p>	<p>むかし、北海道に来たサムライたちは、ずっと前からそのぼしょにすんでいたアイヌの人たちをおいはらい、土地をうばいました。ヌプキナ(すずらん)がさく、みずうみのほとりにくらしていたアイヌの兄と妹の、かなしいものがたりです。</p>	としよ	<p>「きっちり・しとーるさん」</p>  <p>おの りえん 作・絵 こぐま社</p>	<p>しとーるさんは、とってもキッチリしています。図書館のしごともテキパキこなすし、時間もキッチリまもりすぎていて、まわりの人たちは少しこわがっていました。そんなあるゆきのよる、しとーるさんは、とてもよごれた小さな子ネコに出あいました。</p>
えほん	<p>「なんでもモッテルさん」</p>  <p>竹下 文子 文 アヤ井 アキコ 絵 あかね書房</p>	<p>モッテルさんのかぞくはお金もちです。なんでももっているの、おやしきの中はものでいっぱい。ところがある日、ものすごいあらしがきて…。モッテルさんかぞくが、お金では買えない「大切なもの」を知っていく、あたたかなおはなしです。</p>	としよ	<p>「グラタンおばあさんとまほうのアヒル」</p>  <p>安房 直子 作 いせ ひでこ 絵 小峰書店</p>	<p>グラタンの大好きなおばあさんは、いつもおさらのアヒルのえによびかけていました。ある日、かぜをひいたおばあさんが、こまっていると…。「おさらのアヒルは ふしぎなアヒル」じゅもんをとえると、おさらからピョンとアヒルがとび出した!</p>
えほん	<p>「かぜのでんわ」</p>  <p>いもとようこ 作・絵 金の星社</p>	<p>山の上にあるでんわは、せんがつながっていません。今日も一人、山にのぼってもう会えなくなった人とおはなしをするために、でんわをかけにきました。岩手けんおおつち町にある「風のでんわ」を元にしたおはなしです。</p>	としよ	<p>「たくさんのお月さま」</p>  <p>ジェームズ・サーバー 文 ルイス・スロポドキン 絵 なかがわちひろ 訳 徳間書店</p>	<p>ある国に、もうじき11さいになる小さなレノアひめがすんでいました。「お月さまがほしい」というレノアひめのねがいを、王さまやけらいたちはがんばってかなえようとしますが…。</p>
えほん	<p>「つらら」</p>  <p>みずとさむさと ちきゅうのちから 細島 雅代 写真 伊地知 英信 文 ポプラ社</p>	<p>冬は水のしたたるところに つららができます。どんなところに行けるのか、どうして長くなるのか。大きさはさまざまいろいろ、とけたりこおったりをくりかえすふしぎなおおりの…。つららをつくるじっけんもしょうかいしています。</p>	としよ	<p>「あおぞらこども食堂はじまります!」</p>  <p>いとう みく 作 丸山 ゆき 絵 ポプラ社</p>	<p>ハルさんは一人で夜ごはんを食べている子どもたちのため、みんなでごはんが食べられて本をよんだりおしゃべりができる「こども食堂」をひらきました。わいわい、ほかほか、いいにおい。今日のメニューはクリームシチュー。みんなでいっしょに、いただきます。</p>